

研究型大学の留学生比率を検証する

スーパーグローバル大学創成支援事業 タイプA13大学の留学生比率

筑波大学国際日本研究学位プログラム博士課程後期課程

金井達也

1. 本稿の目的

留学生30万人計画は、2019年5月1日現在で留学生数312,214人を達成、2021年3月31日には、関係省庁会議の「留学生30万人計画」骨子検証結果報告が発表されている。この検証結果報告で、「2020年以降の新型コロナウイルス感染症の拡大は、優秀な留学生の受入れにも大きな影響を与えている」とされている通り、留学生数は、2020年5月1日現在では、279,597人に減少した。しかしながら、2022年3月1日の日本入国の際の水際措置の見直し等を受け、新型コロナ収束後の日本の留学生受入れの更なる充実を視野に、本稿では、最新の公開情報に基き我が国の、特に研究型大学院の留学生比率について整理を試みた。これらの分析を足掛かりに、日本の研究型大学院における国際協力枠組みと留学生受入れの意義についてさらに検証を進めてゆきたい。

2. 留学生比率の算出方法

本稿の留学生比率は、次の方法で算出した。

- (1) 対象大学は、2014年から実施されている、スーパーグローバル大学創成支援事業の、世界レベルの教育研究を行う大学「タイプA（トップ型）」13大学とする。
- (2) 各大学の学生数、留学生数は各大学のホームページ上の開示情報を用いる。
- (3) 比較のため、原則として2021年5月1日現在の数字を用いる（大学によっては、2021年11月1日現在の数字も公開されている。また、名古屋大学については、開示されている最新の留学生数が2020年度のため、学生数も2020年5月1日現在のものを用いた。）
- (4) 留学生の定義については、各大学の開示資料で、いわゆる international students として用いられているものを採用した。例えば、東京大学は「外国人留学生」（永住者等を含まない日本国籍以外の者）で、早稲田大学は「外国人学生」（日本以外の外国籍を持ち、且つ「永住者」等以外の在留資格を有している者）である。
- (5) グループ分けについては、①学士・②修士・博士課程前期・専門職学位課程（以下修士等）、③博士課程後期・一貫制博士・4年制博士（以下博士課程後期）、とした。

(6) 研究生、聴講生等については、各大学の詳細が必要なため、今後作業を行うこととし、今回の比率算出は、留学生数、学生数とも正規生で行った。

3. 結果総括表

表 1(1) 総括表 13 大学の留学生比率 (学士)

(表 1) (1)(2) が結果の総括表である。スーパーグローバルタイプ A13 大学中、全 13 大学の学士比率及び、11 大学の修士等、博士課程後期の比率が算出された。

11 大学の、留学生・学生数それぞれ総合計後の比率は、学士 3.1%、修士等 22.5%、博士課程後期 30.1% で、日本の研究型大学では大学院での留学生受入れが中心で修士では 5 人に 1 人、博士では 3 人に 1 人が留学生となっている。

東京医科歯科大学、慶応大学については、表 1 (2) 列 (f) の通り、大学院全体の留学生比率がそれぞれ、21.0%、18.3% と算出された。また 9 大学については、修士等・博士課程別の研究科別の内訳が開示されており、この 9 大学の例も用いながら、以下、概要を説明することとしたい。

4. 学士の留学生比率

(表 1)(1) 列 (c) の通り、13 大学の学士の留学生比率は、東京医科歯科大学の 1.0% から東京工業大学の 5.6% の幅にある。13 大学の比率の単純平均は 2.7%、留学生・学士数それぞれ総合計後の比率は、3.1% で、13 大学の学士合計 179,670 人中、5,656 人が留学生である。

留学生比率が高い大学の学部別内訳をみると、留学生吸引力の高い学部が貢献していることが分かる。(表 2) は東京工業大学 (比率 5.6%)、(表 3) は早稲田大学 (比率 5.5%) の学部別内訳であるが、東京工業大学の環境・社会理工学院の留学生比率は 19.3%、早稲田大学の国際教養学部は 25.2% と高い留学生比率になっている。

		international student として使われている用語	統計数字の時点	学 士		
				留学生数 (a)	総 数 (b)	比 率 (c)
1	北海道大学	外国人留学生	5/1/2021	290	11,561	2.5%
2	東北大学	留学生	5/1/2021	190	10,695	1.8%
3	筑波大学	外国人留学生	5/1/2021	268	9,715	2.8%
4	東京大学	外国人留学生	5/1/2021	295	14,033	2.1%
5	東京医科歯科大学	外国人学生	5/1/2021	14	1,470	1.0%
6	東京工業大学	外国人学生	5/1/2021	271	4,858	5.6%
7	名古屋大学	留学生	留学生は 2020 年度、学生数は 2020/5/1	286	9,585	3.0%
8	京都大学	外国人留学生	5/1/2021	220	12,956	1.7%
9	大阪大学	外国人留学生	5/1/2021	351	15,075	2.3%
10	広島大学	外国人留学生	5/1/2021	105	10,605	1.0%
11	九州大学	外国人留学生	5/1/2021	359	11,699	3.1%
12	慶応義塾大学	留学生	5/1/2021	874	28,733	3.0%
13	早稲田大学	外国人学生	5/1/2021	2,133	38,685	5.5%
		各大学の留学生比率の単純平均				2.7%
		各大学の人数合計後の留学生比率		5,656	179,670	3.1%

表 1(2) 総括表 13 大学の留学生比率（修士等・博士後期）

		修士等・博士後期別の研究科別の内訳	大学院			修士等（修士・博士課程前期・専門職学位課程）			博士後期（一貫制博士、4年制博士含む）			（左記修士等の内数専門職学位課程）		
			留学生	総数	比率	留学生	総数	比率	留学生	総数	比率	留学生	総数	比率
			(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)	(k)	(l)	(m)	(n)	(o)
1	北海道大学	開示				773	3,902	19.8%	789	2,445	32.3%	20	178	11.2%
2	東北大学	開示				772	4,261	18.1%	818	2,709	30.2%	18	n.a.	
3	筑波大学	開示				899	4,049	22.2%	650	2,100	31.0%	3	141	2.1%
4	東京大学	開示				1,914	8,131	23.5%	1,663	6,007	27.7%	140	812	17.2%
5	東京医科歯科大学		314	1,495	21.0%	n.a.	284		n.a.	1,211				
6	東京工業大学	開示				866	4,114	21.1%	607	1,520	39.9%			
7	名古屋大学					922	3,858	23.9%	710	2,329	30.5%	n.a.	92	
8	京都大学	開示				941	5,704	16.5%	1,086	3,826	28.4%	111	748	14.8%
9	大阪大学					824	4,777	17.2%	885	3,374	26.2%	4	206	1.9%
10	広島大学	開示				735	2,615	28.1%	533	1,820	29.3%	0	102	0.0%
11	九州大学	開示				895	4,313	20.8%	816	2,572	31.7%	6	289	2.1%
12	慶応義塾大学		861	4,703	18.3%	n.a.	3,300		n.a.	1,403		n.a.	365	
13	早稲田大学	開示				2,213	6,576	33.7%	639	1,833	34.9%	208	1,320	15.8%
			各大学の留学生比率の単純平均					22.3%			31.1%			8.2%
			各大学の人数合計後の留学生比率			11,754	52,300	22.5%	9,196	30,535	30.1%	492	3,796	13.0%

（表 2）東京工業大学（学士）留学生比率の高い学院

	留学生数	学士学生数	比率
環境・社会理工学院	115	597	19.3%
工学院	81	1631	5.0%
物質理工学院	30	791	3.8%
情報理工学院	17	454	3.7%

（表 3）早稲田大学（学士）留学生比率の高い学部

	外国人学生（正規生）	在籍者数	比率
国際教養学部	637	2,523	25.2%
政治経済学部	426	3,870	11.0%
人間科学部（通信教育課程）	52	764	6.8%
基幹理工学部	169	2,519	6.7%
社会科学部	162	2,687	6.0%

5. 修士等（修士・博士課程前期・専門職学位課程）

修士等の留学生数は、11 大学で開示されている。この 11 大学の留学生比率は、（表 1）(2)(i) 列の通り、京都大学の 16.5% から早稲田大学の 33.7% の幅にある。11 大学の留学生比率の単純平均は 22.3%、留学生・修士等総数それぞれ合計後の比率は 22.5% で、11 大学の修士等合計 52,300 人中、11,754 人が留学生である。

（表 4）早稲田大学（修士等）外国人学生比率の高い大学院研究科

		外国人学生数	総数	比率
大学院	情報生産システム研究科	420	442	95.0%
大学院	国際コミュニケーション研究科	114	123	92.7%
大学院	アジア太平洋研究科	250	280	89.3%
大学院	経済学研究科	125	159	78.6%
大学院	商学研究科	91	123	74.0%

(表5) 広島大学(修士等)外国人留学生比率が高い大学院研究科

		留学生数	総数	比率
大学院	国際協力研究科	68	80	85.0%
大学院	総合科学研究科	19	24	79.2%
大学院	工学研究科	31	45	68.9%
大学院	文学研究科	30	47	63.8%
大学院	社会科学研究科	33	57	57.9%

修士等留学生比率の上位2大学、早稲田大学(33.7%)、広島大学(28.1%)の研究科別留学生比率を(表4)(表5)で見ると、早稲田大学の情報生産システム研究科(95.0%)、広島大学の国際協力関係科(85.0%)等、極めて留学生比率が高い学科が大学全体の修士等留学生比率に貢献していることが分かる。

(表6) 北海道大学修士等留学生比率の高い研究科

研究科名	修士		
	留学生	総数	比率
経済学院	68	81	84.0%
法学研究科	33	44	75.0%
国際広報メディア・観光学院	81	110	73.6%

(表7) 東北大学修士等留学生比率の高い研究科

研究科名	修士		
	留学生数	在籍者	留学生比率
法学研究科	23	26	88.5%
国際文化研究科	53	63	84.1%
経済学研究科	100	131	76.3%

(表8) 筑波大学(新組織修士等)外国人留学生比率の高い研究群

研究群		留学生数	総数	比率
人間総合科学学術院	(修士)国際連携食料健康科学専攻	10	13	76.9%
人文社会ビジネス科学学術院	人文社会科学研究群	129	241	53.5%
理工情報生命学術院	生命地球科学研究群	177	647	27.4%
理工情報生命学術院	博士前期	1	4	25.0%
理工情報生命学術院	システム情報工学研究群	229	1013	22.6%

留学生比率については、理系研究科が目立つことが多いが、ここで文系研究科についてみたい。(表6)(表7)(表8)は、北海道大学、東北大学、筑波大学の修士等研究科別留学生比率である。北海道大学・東北大学は、法学研究科・経済学研究科が、ともに極めて高い留学生比率となっている。また、筑波大学は、人文社会科学研究群が50%超の留学生比率となっている。今後理系・文系双方についてその要因等につき検討を継続したい。

6. 博士課程後期（一貫制博士、4年制博士含む）

博士課程後期の留学生数が開示されている11大学の留学生比率は、(表1)(2)(I)列の通り、東京工業大学の39.9%から大阪大学の26.2%の幅にある。11大学の比率の単純平均は31.1%、留学生・博士課程後期総数それぞれ合計後の比率は、30.1%で、11大学の博士課程後期合計30,535人中、9,196人が留学生である。

(表9) 東京工業大学（博士課程後期）
外国人留学生比率の高い学院

学院	外国人留学生	総数	比率
工学院	198	387	51.2%
物質理工学院	121	273	44.3%
理工学研究科	5	12	41.7%
生命理工学院	69	172	40.1%
環境・社会理工学院	134	349	38.4%
情報理工学院	50	137	36.5%

(表10) 東京大学（博士課程後期）
外国人留学生比率の高い研究科

研究科	外国人留学生	総数	比率
公共政策学	13	22	59.1%
工学系	550	1194	46.1%
新領域創成科学	212	516	41.1%
農学生命科学	171	425	40.2%
法学政治学	36	92	39.1%
学際情報	61	172	35.5%
情報理工学系	95	282	33.7%

留学生比率第一位39.9%の東京工業大学、及び留学生数第一位1,663人の東京大学の研究科別留学生比率は、(表9)(表10)の通りである。東京工業大学の(表9)からは、工学の51.2%をはじめ理系の幅広い分野で高い比率で留学生が学び、東京大学の(表10)からは、公共政策学・法学政治学等の文系、工学・新領域創成科学等の理系双方で高い比率で留学生が学んでいることが分かる。東京大学でも理系の留学生比率のトップは、46.1%の工学で、東京工業大学と同様である。

7. 修士等及び博士課程後期の留学生数及び留学生比率の比較

最後に、開示資料のある11大学の、博士課程後期と修士等の留学生数、留学生比率を比較してみたい。

まず留学生数については(表11)列(p)で、総数で博士課程後期が修士等を上回るのは京都大学と大阪大学のみである。特に京都大学は、博士課程後期の1,086人が修士等941人に比し145人と顕著に多い。

(表12)が京都大学の大学院研究科別内訳であるが、理学・工学が博士課程後期の留学生が多いことに貢献しているのが分かる(今回の作業では、医学研究科4年制博士課程の留学生93名全員を、博士課程後期に算入している)。

(表 11) 博士課程後期と修士等の留学生数と留学生比率の比較

	修士等 (修士・博士課程前期・専門職学位課程)			博士後期 (一貫制博士、4年制博士含む)			修士等と博士後期の比較	
	留学生	総数	比率	留学生	総数	比率	博士後期と修士等の差	
	(g)	(h)	(i)	(j)	(k)	(l)	留学生数 (j)-(g)	留学生比率 (l)-(i)
1 北海道大学	773	3,902	19.8%	789	2,445	32.3%	16	12.5%
2 東北大学	772	4,261	18.1%	818	2,709	30.2%	46	12.1%
3 筑波大学	899	4,049	22.2%	650	2,100	31.0%	-249	8.7%
4 東京大学	1,914	8,131	23.5%	1,663	6,007	27.7%	-251	4.1%
5 東京医科歯科大学	n.a.	284		n.a.	1,211			
6 東京工業大学	866	4,114	21.1%	607	1,520	39.9%	-259	18.9%
7 名古屋大学	922	3,858	23.9%	710	2,329	30.5%	-212	6.6%
8 京都大学	941	5,704	16.5%	1,086	3,826	28.4%	145	11.9%
9 大阪大学	824	4,777	17.2%	885	3,374	26.2%	61	9.0%
10 広島大学	735	2,615	28.1%	533	1,820	29.3%	-202	1.2%
11 九州大学	895	4,313	20.8%	816	2,572	31.7%	-79	11.0%
12 慶応義塾大学	n.a.	3,300		n.a.	1,403			
13 早稲田大学	2,213	6,576	33.7%	639	1,833	34.9%	-1,574	1.2%
各大学の留学生比率の単純平均			22.3%			31.1%		8.8%
各大学の人数合計後の留学生比率	11,754	52,300	22.5%	9,196	30,535	30.1%	-2,558	7.6%

(表 12) 京都大学 外国人留学生数 博士課程後期と修士等の比較

大学院研究科	修士等外国人留学生数	博士後期外国人留学生数	博士後期と修士等の差
医学研究科	43	125	82
理学研究科	43	119	76
工学研究科	164	231	67
その他	691	611	-80
合計	941	1,086	145

次に留学生比率については (表 11) 列 (q) で、開示資料のある 11 大学全てで、博士課程後期の留学生比率が修士等の留学生比率より高く、東京工業大学の 18.9% 高から広島大学及び早稲田大学の 1.2% 高の幅にあり、11 大学の単純平均は 8.8% 高である。

(表 13) 九州大学 外国人留学生比率 博士課程後期と修士等の比較

大学院学府	修士			博士後期			博士後期と修士等の差
	外国人留学生	総数	比率	外国人留学生	総数	比率	
工学府	113	985	11.5%	205	394	52.0%	40.6%
総合理工学府	109	474	23.0%	113	206	54.9%	31.9%
生物資源環境科学府	100	507	19.7%	90	176	51.1%	31.4%
システム情報科学府	126	432	29.2%	57	95	60.0%	30.8%

博士課程後期の留学生比率が修士等の留学生比率より高い要因を、11.0% 高い九州大学を例に見てみたい。(表 13) の大学院学府別内訳を見ると、工学府、総合理工学府、生物資源環境学府、システム情報学府と、理系の貢献が大きいことが分かる。

8. 今後の検討

今回の検討は、インターネット上の開示資料のみから、外国人留学生の数値を追うという試みであるが、日々作業を進めるほどに、次の段階で行いたい分析が増加した。今後は、先達の皆様のご指導を仰ぎながら、次のような検討を進めていければと思っている。

(1) 今回の分析の深化

- ① 今回の 13 大学について、関係者のヒアリング等を含む、分析作業
- ② スーパーグローバルタイプ B の 24 大学への作業の拡大
- ③ コロナ前とコロナ期の外国人留学生数の比較

(2) 研究型大学における研究・国際化と留学生受入れの意義

(3) 日本と他国における大学院留学生比率の比較

9. 終わりに

まず何よりも、今回の作業のアイデアとご指導、この文章にする機会をいただいた、アジア学生文化協会の白石勝己理事長に心から感謝申し上げたい。

筆者は第一キャリアで 38 年間公務員を務め、そのうち 18 年間は海外で勤務した。ダイバーシティ環境でお互いを尊重しながら働く素晴らしさに魅了され、第二キャリアは同じことを日本で実現したいという思いで、外国人材を研究テーマに、2020 年春に、筑波大学社会人博士課程に入学した。「日本を選んで日本に来てくれた外国人材の皆さんに毎日笑顔で暮らして欲しい。」と心から思いつつ研究を続けている。今後とも、皆様のご指導を仰ぎながら、少しずつ前に進んで行きたい。



金井達也 (かないたつや)

1982 年大蔵省入省。財務省・金融庁・内閣官房・アジア開発銀行等で勤務。2020 年筑波大学博士課程後期入学。

◀ フィリピンにて。地元の子もたちと